

低学年で身につけたい！ 物語を読むチカラ

低学年の物語を読む学習では、次の内容をおさえることが大切です。

物語の全体像を捉える

物語全体を読んで「はじめと終わりで何が変わったか」を確認めることが、低学年の学習において重要です。下の『きつねのおきゃくさま』の例のように、場面ごとに読むと子どもの読み方が変わってしまう物語もあるため、場面で分けて読む前に、まずは物語の全体像を捉えさせるようにします。

『きつねのおきゃくさま』の例

〈全体像〉

きつねは、ひよこやあひるを食べようと思っていたが、命がけで守るほど大切に思うようになった。
〈場面ごとに読むと…〉

「まるまる太ってきたぜ」という文をきつねの気持ちとして捉えてしまい、きつねが最後まで、ひよこやあひるを食べる気である、と読んでしまう場合がある。

物語の構造を捉える

物語には、「繰り返し型」「起承転結型(事件型)」の大きく二つと、両者をミックスした型があります。低学年では、まだ起承転結は難しいので、物語の中に繰り返しがあるかを見つけるようにします。そして、繰り返しで進む物語と、そうではない物語があるという構造の型を理解することが大切です。

低学年教材の物語構造

『おおきなかぶ』→繰り返し型

『けんかした山』→起承転結型(事件型)

『きつねのおきゃくさま』→ミックス型

あおぴー
のまなびのぽけっと

昭和学院小学校 校長
あお き のぶ お
青木 伸生

登場人物を捉える

「会話文があるか」「自分で動くか」を手がかりに、登場人物を判断します。同時に、「地の文」と「会話文」があるということも学べるとよいでしょう。会話文について、誰が言っている言葉かを考えることは、主語(動作主)を確認めるという学習にもつながります。

◆ 読みを深めるために

低学年のうちに、「置きかえる」という活動を繰り返し行うとよいでしょう。置きかえ活動には、次の3種類があります。

・動作化

「うなずいた」「後ずさりをした」などの言葉を動作化して理解する。

・イラスト化

言葉を文字以外のかたちに置きかえる。図や表で整理するという、中・高学年の学習の土台となる。

・他の言葉に置きかえる

「『そうっと』を言いかえると?」「『すみか』を言いかえると?」などと考える。

置きかえ活動を繰り返し行うと、人物や場面の様子を具体的に想像する力がつきます。そして、学年が上がったとき、言葉をもとに自分の頭の中でイメージすることができるようになります。

置きかえ活動の延長として、寸劇や紙芝居、ペープサート作りに取り組むこともお勧めです。

低学年向けのお薦めの言語活動について、noteで詳しく紹介しています。



note

Vol.
17

小学国語通信

教育出版

ことばだより KOTOBADAYORI

低学年向け

読み聞かせ 絵本特集

3名の先生に低学年向けの絵本を
ご紹介いただきました！
ぜひ学級で読んでみてください♪



さあ、食べ物の旅にでましょう！

『どこからきたの？

おべんとう』

鈴木まもる 作・絵
金の星社



いつも口にする食べ物は、どこからくるのでしょうか？見慣れた食材の作られ方や流通に目を向けると、いろいろな人が関わっていることが見えてきます。



学習院初等科
かとうまなみ
加藤真奈美先生

そっと となえてみて

『だいじょうぶ

だいじょうぶ』

いとうひろし 作・絵
講談社



「だいじょうぶ だいじょうぶ。」おじいちゃんが繰り返すこの言葉は、子どもの不安を包みこむ魔法の言葉です。大人になっても心の支えになってくれる絵本です。



昭和学院小学校
つばきようへい
柘植遼平先生

じわ〜っと心が温まる♪

『番ねずみのヤカちゃん』

リチャード・ウィルバー 作
松岡享子 訳 大社玲子 絵
福音館書店



ヤカちゃんは、兄弟の中でいちばん声の大きなねずみです。声が大きいのので人間に見つかりそうになります。でも、その声のおかげで大好きなチーズを毎日食べられるように。



枚方市立桜丘北小学校
かきはらとうせい
笠原冬星先生

次のできごとが予想できる！

『いつもちくのおとこのこ

ージョン・バトリック・ノーマン・マクヘネシー』

ジョン・バーニンガム 作
谷川俊太郎 訳 あかね書房



毎朝遅刻する男の子と先生とのやりとりが何度目も出てきます。繰り返しがあるからこそ、後半のオチとの対比が生きて「笑い」が生まれる絵本です。

がんばる子どもの気持ちに寄り添う

『きみのことがだいすき』

いぬいさえこ 作・絵
パイ インターナショナル



心温まる絵が目をはきします。「たくさんまちがえる、きみはすてき。」という言葉どおり、日々がんばっている子どもの気持ちを大切にしたい絵本です。

鏡のある本に大盛りあがり！

『かがみのえほん

ふしぎなにじ』

わたなべちなつ 作
福音館書店



鏡が一つと虹が一つ。この二つが合わさるとさまざまな姿を見せてくれます。鏡のしかけに盛り上がることまちがいない！最後のページをゆっくり開いてみると……。

小学国語通信

小学国語通信 ことばだより Vol.17 2026(令和8)年1月発行

ことばだより
KOTOBADAYORI

教育出版株式会社 教育DX編集本部 国語科

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館 TEL:03-5579-6278(代表)

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配布を許可されているものです。

単元名



気持ちをそうぞうしながら読もう —『スイミー』(1下)—



常葉大学教育学部附属橘小学校

教諭 もちづき あずさ
望月 梓

目標

- ・お話に親しみ、楽しさやおもしろさを感じながら読むことができる。……知技(3)エ
- ・場面の様子に着目して、スイミーの行動や気持ち、その変化の理由を考えることができる。……思判表C(1)エ

本単元で取り上げる言語活動について

本単元の最後に、スイミーに手紙を書くという言語活動を設定しました。「スイミーに手紙を書こう」とただ伝えるだけでは、何を書いたらいいのかわからない、という児童もいます。しかし、各場面のスイミーの気持ちを吹き出しに書くという活動を積み重ねることで、スイミーの変化を実感し、スイミーへの思いをもって手紙を書くことができるでしょう。この手紙を書く活動を通して、単元の最後に、お話を再度読み深めることができます。

学習指導計画（全9時）

時	学習活動	指導上の留意点
1	○お話に誰が出てきたか、どこで何が起きたかを確かめる。	○お話全体を読んで、あらすじを確かめるようにする。
2・3	○第二場面のスイミーの気持ちを想像し、吹き出しに書く。 ○第三場面に書かれているスイミーの気持ちを詳しく考え、吹き出しに書く。	○第三場面は、書かれている三つの気持ちの理由をそれぞれ考えさせることで、「またまぐろがいるかもしれないから、こわい。」「一人きりだから、さびしい。」のように、スイミーの気持ちに迫らせたい。
4・5	○第四場面で、すばらしいものやおもしろいものを見たときの様子を思い浮かべながら、スイミーの気持ちを想像し、吹き出しに書く。	○イメージすることが難しいものは、実際の写真や映像なども見せながら、スイミーが見たものを実感させる。そのうえで、「～のような」「～みたいな」の表現にも注目させる。
6	○第五場面で、小さなさかなのきょうだいたちを誘うときや、うんと考えたときのスイミーの気持ちを、会話文をもとに考え、吹き出しに書く。	○「いろいろ」「うんと」考え、よい考えを思いついたスイミーの前向きさをおさえて、次時の学習につなげられるようにする。
7	○はじめと終わりで、スイミーは何が変わったか、どうして変わったのかを、これまでに書いた吹き出しを振り返りながら考える。	○吹き出しを読み返すことで、スイミーが変わったことに気づく児童もいる。その気づきをもとに、スイミーの変化とその理由を考えさせる。
8	○お話全体の中で、心に残ったことや好きな場面、スイミーに対して思ったことを伝え合う。	○スイミーの視点から読み取ってきたが、読み手として物語全体を捉える意識に切り替えさせる。
9	○スイミーに手紙を書く。	○これまでの学習を振り返りながら、スイミーへの気持ちを表現させる。 児童作例▶ 

指導にあたって

- 言葉を手がかりとして思考するための工夫** 本文中には書かれていないスイミーの気持ちを、自分なりに言葉にして書くためには、場面の様子や表現をもとに考えることが必要です。場面ごとにスイミーの気持ちを吹き出しに書く活動を通して、本文に着目して考える力が身につくでしょう。また、第7時に設定した「心情の変化」は中学年の学習内容ではありますが、場面ごとの吹き出しを並べていくなかで、スイミーの変化に気づく児童もいるでしょう。その場合には、子どもの気づきを取り上げ、スイミーの変化の理由を問うことで、更に読みを深めることができます。
- 深い学びにつながる対話の工夫** 友達と考えを共有する際には、「どうしてその言葉にしたの?」や「同じ意見だけど、理由が違うね。」のように、友達の考えを広げることができるような言葉を使って聞くことを指導するとよいでしょう。そういった言葉を使うことができた児童の実際の発言を、授業の中で取り上げ、認めることを繰り返すと、対話の姿勢が身についていきます。

単元名

読書会をしてお話の世界を楽しもう —『アレクサンダとぜんまいねずみ』(2下)—



我孫子市立我孫子第一小学校

教諭 きむら ゆか
木村 由佳

目標

- ・幼年文学(※)の表紙や題名、内容などから、いろいろな本があることを知り、読書に親しむことができる。……知技(3)エ
 - ・文章の内容と自分の体験とを結びつけながら読み、文章の内容に対して思いをもつことができる。……思判表C(1)オ
- ※ここでの幼年文学とは、児童文学の中の一部で、主に未就学児から低学年児童向けの本をさします。絵本から本格的な物語への架け橋となる本です。学校図書館では、「1・2年生向け」の本棚などに配架されていることが多いです。

本単元で取り上げる言語活動について

本単元では、読書会を行うという言語活動を設定しました。読書会と聞くと、堅苦しくて難しそうというイメージをもたれるかもしれませんが、私が目ざしているのは、「友達と映画を見た後のカフェでの会話」の読書バージョンです。一人で楽しむ読書も最高ですが、同じ本を読んだ友達と感じたことを語り合いながら、新たな考えに気づいていくことも、自分の読み方が広がって最高に楽しいことだと思います。しかし、読書会を行うと「おもしろかった以外の感想がない」「どういことを話せばいいのだろう」と困ってしまう児童も多いでしょう。このような困り感を解決するためには、読みの観点を提示したうえで読書に取り組ませることが大切です。本単元では、読みの観点を五つ示しましたが、本の読み方はたくさんあります。いろいろな読み方を体験して自分に合った読み方を見つけ、読書が楽しいと思ったり、本について語り合うのは楽しいと感じたりしてほしいと思っています。



学習指導計画（全16時）※「本探しゲーム」のルールと8時間め以降の学習指導計画は「note」へ

note

時	学習活動	指導上の留意点
1	○「幼年文学を一年生に紹介しよう」という学習のゴールを知り、学習計画を立てる。	○児童に学習のゴールを示し、児童とともに学習の計画を立てる。易しい幼年文学を読み聞かせする。
2	○学校図書館で「本探しゲーム」をしながら、幼年文学に親しむ。	○幼年文学の配架場所などを指導する。これから読書会をしたり紹介をしたりするため、幼年文学をたくさん読んでおこうと声かけをする。
3・6	○教科書教材『アレクサンダとぜんまいねずみ』で読書会を行うための準備をする。	○読書会で話すための読みの観点(①)を五つ示し、児童と一緒に取り組みながら、いろいろな読み方にふれさせる。 児童作例▶ 
7	○読書会の進め方を知り、グループに分かれて読書会を行う。	○読書会の進め方を説明し(②)、3～4人のグループに分け、読書会に取り組めるよう指示を出す。

指導にあたって

- ① 読書会で本について語るための読みの観点について** 本単元では、C(1)オの力を身につけさせたいため、読みの観点を、次の五つとしました。①「どうしてなのかな?」②「自分だったら」③「終わったあとのことを想像する」④「気に入らなかったところ」⑤「本や自分とのつながり」です。この読みの観点を教師がどのようなものにするかによって、児童に身につく力が変わってきます。
- ② よりよい読書会にするための工夫** よりよい読書会にするためには、成功している読書会のイメージを児童と共有する必要があります。そのため、本単元では、台本型の教師見本を作成しました。話す順番や、相手の話に対する反応の仕方、会話のつなげ方など、児童に留意させたい部分がわかるように作っています。ぜひ、ご活用ください。 

教師見本